

地域連携、国際交流

国立大学法人奈良教育大学として3年目をむかえましたが、奈良にある教育大学として、特色ある取組みのいくつかを簡単に紹介したいと思います。

本学の特色ある教育改革の取組みの一つに「新世代を先導する理数科教員養成プログラム」があります。このプログラムの一環として、県内の自然豊かな曾爾村の小学校と中学校を会場として「サマースクール2006イン曾爾」が開催されました。詳細は本号に紹介されていますので省きますが、私も4日間の日程の前半に参加し、両校の校長先生をはじめ、理科の先生方、さらに保護者の方々とも懇談の機会をもちました。参加した学生諸君の、最初は少しぎこちなかった子どもたちとの触れ合いもすぐに打ち解けたようであ

心しました。子どもたちのための科学実験や各教室に別れての学習支援など、曾爾村の子どもたちとのまたとない交流の機会になりました。大学での準備ではうまくいったけれどその場では思うようにできなかった実験もありましたが、これらの経験を今後にかかすとともに、サマースクールが着実に継続されるよう願っています。

同村の教育委員会の方々ともお話しする機会がありました。本学がまだ奈良学芸大学であったころに学生と共同で取り組んでいた「へき地教育研究」や当時ご活躍であった先生方のお名前が出てきて大変懐かしく思いました。本学では、昭和三十年代から五十年代にかけて「へき地教育」の組織的な研究を行なってきましたが、いまあらためて、理数科の教員

養成とともに、地域の教育を支えるコミュニケーションの役割を視野に入れた新しい形のへき地教育の手がかりを掴みつつあると思います。

さて、眼を海外に転じて、国際交流の取組みをご紹介します。

本学の中期目標では、「アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際交流を広く推進する」こととしています。昨年締結した西安外国語大学（中国）との学術交流協定に基づく初めての共同事業として、10月上旬に「西安外国語大学との国際大学交流セミナー」を開催しました。

同大学東方語言文化学院副院長の馬先生をはじめ、日本語を専攻する学生の皆さんをお迎えして、「世界遺産を通じた環境教育と文化理解教育」をテーマに、大学の内外で一



柳澤 保徳
奈良教育大学 学長

週間に及ぶセミナーを成功裡に終了することができました。来日した学生の皆さんのフレンドリーな態度と自然な日本語には驚かされたのですが、最終日、ホームステイ先のご家族を交えての「さよならパーティー」では、終始名残が尽きませんでした。次年度以降の取り組みが期待できそうです。

これを契機に、世界遺産と伝統文化あふれる奈良の特色を生かした留学生教育プログラムをさらに育てて参りたいと思います。また、このような交換留学生の相互派遣による国際交流の促進とともに、今後はアジアの国々の教員養成教育をテーマとした教育研究交流も考えていく必要があると思っています。